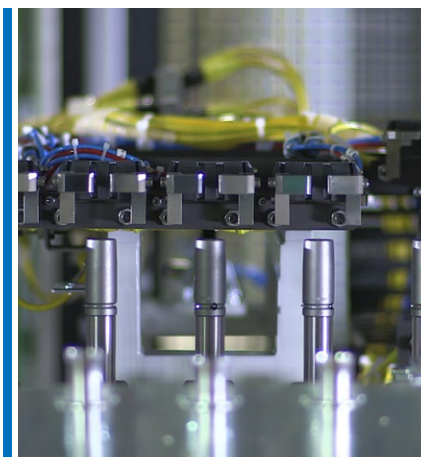


事業セグメント別戦略



自動車関連事業

Automotive-related Equipment

EV(電気自動車)関連やパワートレインと呼ばれる動力伝達・駆動系の主要部品をはじめ、それらの制御用コンピュータなどの電子機器、各種センサなどの車載用電子部品、空調用エアコンプレッサなど、多岐にわたる生産システムに対応しています。数多くの装置・設備を一括して当社にて対応しており、お客さまの工場へ納品する前に、当社工場内において総合試運転を実施、実際の動作を確認できることが特徴です。また、部品の共通化により、メンテナンスや保守部品の手配も容易で、その他、デジタルツイン技術を活用することで生産システムの設計・開発を効率的に行っています。

強み Strengths

- ① 開発から生産・保守までの一貫体制
- ② 顧客の要求に応えるエンジニアリング力
- ③ 生産ラインを丸ごと検証できる広大な工場
- ④ 顧客からの信頼と継続取引
- ⑤ 幅広い製品ラインナップ

弱み Weaknesses

- ① 新規開発案件における採算管理と収益性
- ② 当社独自のキーデバイス・標準設備の開発力
- ③ 特定地域の市場における競争力

機会 Opportunities

- ① 環境課題対応製品の市場拡大
- ② 地産地消(メーカー各社における現地調達強化)
- ③ ビジネスのDX進展
- ④ 国内企業との海外展開連携

脅威 Threats

- ① 環境規制強化に伴う市場環境の変化
- ② EV化に伴う部品点数の減少および生産システムの需要減
- ③ 中国企業の台頭
- ④ 為替変動

事業環境

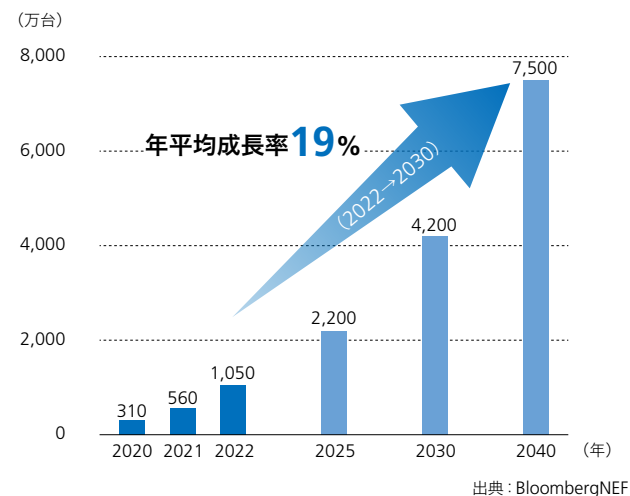
今後の業界見通し

確実に見通せる未来として、EV市場の長期的な拡大があります。世界各国の政府と自動車業界のリーダーが、地球の気温上昇を抑えるために、EVの普及拡大を約束しており、EV販売台数は、2030年には年間4,200万台に達する見通しです。

主要な取引先

主要な取引先としては、北米ではGeneral Motors、Ford Motor Company、欧州ではStellantis N.V.、日本ではトヨタ自動車株式会社、本田技研工業株式会社、株式会社デンソーなどで、新興のEVメーカーとも取引があります。

EV世界販売台数の予測



2022年度の業績

世界的なカーボンニュートラルへの取り組みを背景に、EVへの設備投資が引き続き旺盛で、EVの受注・売上ともに堅調に推移しています。

	2022年度実績	2024年度目標
売上高(百万円)	30,298	40,000
営業利益(百万円)	1,559	2,000
営業利益率	5.1%	5%

Topics

大型案件受注

1. EV関連設備の大型案件受注(2022年7月)

- ・受注した設備はEV用EDU(Electric Drive Unit)組立2ラインで、受注金額は100億円超
- ・一部は2023年度以降の業績に寄与するものと見込む

2. 北米新興メーカー向けEV設備の大型案件受注(2022年11月)

- ・受注した設備はEV用EDU組立ラインなどで、受注金額は75億円超
- ・一部は2023年度以降の業績に寄与するものと見込む

事業戦略

EV用EDU組立ライン、IGBTモジュール組立ライン、インバーター組立ラインに加え、ライン全体の標準化および顧客開拓に取り組んでいます。

これらの既存事業に加え、新たな工程での受注獲得・拡大に向けた取り組みを実施しています。注力分野であるバッテリー分野において、既存のバッテリーモジュール製造工程、充放電システム(セル製造工程内)でのライン全体の標準化に加え、セル製造工程への参入に向けた開発および試作に取り組み、ノウ

ハウの蓄積を図っています。キーデバイスの開発・改良については、中期経営計画で目標に定めた5テーマのうち4テーマ(自動倉庫の改良・「Dual Head ワイヤーボンダー」・AGVの改良・プラントシミュレーション(ソフト)が完了しました。充放電機の開発については、内製化から外部調達に戦略を変更しています。

受注が拡大する中で、工場スペースや人的リソース不足といった生産に関する課題への対応、継続・拡大につながる量産案件の開発・受注に取り組んでいます。

中期経営計画
基本方針
1

成長市場でのビジネス拡大
自動車関連事業における収益性強化の取り組み

バッテリー分野におけるキーデバイス開発

計画

実績

充放電機

戦略変更
(内製化から外部調達へ切り替え)

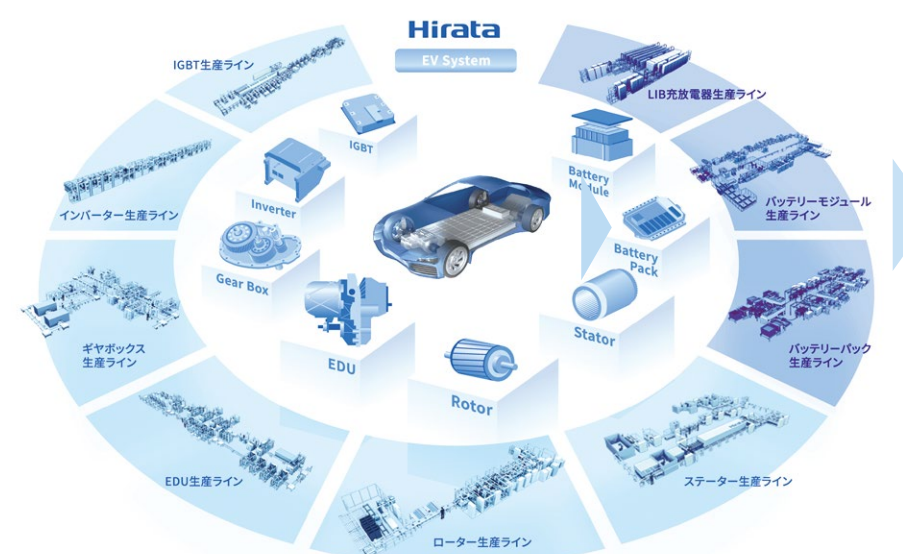
自動倉庫の改良

「Dual Head ワイヤーボンダー」

AGVの改良

プラントシミュレーション(ソフト)

開発完了
(対応工程拡大により、受注・引合が拡大傾向)



EV関連の生産システム一例

事業セグメント別戦略

既存分野	EV用EDU組立ライン、IGBTモジュール組立ライン、インバーター組立ライン、ギアボックス組立ライン、ロータ組立ライン、ステータ組立ラインは、ライン全体の標準化、顧客開拓が大きく前進
先行投資・新規分野	バッテリーモジュール／バッテリーパック製造工程、充放電システム(セル製造工程内)でのライン全体の標準化、セル製造工程参入に向けた開発および試作に着手済み
キーデバイスの開発進捗	中期経営計画で定めた5つの開発テーマのうち4テーマが開発完了 ①充放電機、②自動倉庫の改良、③「Dual Head ワイヤーボンダー」(2ヘッド搭載の結線装置)、 ④AGVの改良、⑤プラントシミュレーション(ソフト) 充放電機は、外部調達に切り替え

地域別事業戦略

北米

1980年に現地にグループ会社を設立して以来、長年の実績と信頼性が評価されていると認識しています。主要な自動車メーカーがEV(電気自動車)に多額の投資を行う一方で、EVを本格的に展開するためのインフラがまだ整っていないため、高性能ICE(内燃機関車)販売も維持される見込みとなっています。当社は両市場に対する設備において、お客さまとの関係をより強固なものにするとともに、装置の標準化を進めることで競争力を強化します。

欧州

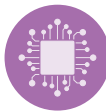
域内では各国政府による需要喚起策などを背景にEVの需要は拡大しているものの、競争が激しい市場であり、受注規模を追求することなく、営業・保守を確実にできる体制づくりを進めていきます。

中国

「中国製造2025」「製造強国2030」など中国国策により、EVは底堅い需要がある市場です。日系企業の現地調達化の波から当社も実績を積んでいます。日本で先行するEV向けの設計技術の習得を進めることで、中国での受注機会を広げていきます。

東南アジア

現時点では、EV関連の投資は先鋭化しておらず、現地生産の大きな波は到来していないと認識していますが、日本などで先行している生産システムのスムーズな移行の準備を行います。



半導体関連事業

Semiconductor-related Equipment

半導体製造工程のウェーハ搬送に用いる各種収納容器のオープナ、大気・真空ロボット、アライナなどを中心に、コンポーネントの開発・製造・販売をしています。また、これらに応用したシステム商品にも注力しており、半導体製造装置メーカーさまには、各装置のために最適化したEFEM*をOEM・ODMの形態で提供し、半導体メーカーさま(ファンドリ)には、EFEMおよびソータを当社ブランドで提供しています。また、半導体製造技術の革新(微細化・3D化)にも対応しており、PLPの搬送に用いる各種コンポーネント、システム商品(EFEM)の開発・製造・販売に加えて、大気雰囲気によるウェーハへの悪影響を抑制するために、N₂(窒素)環境下でウェーハを搬送するN₂EFEMなども提供しています。

* Equipment Front End Module

強み Strengths ① ウェーハ搬送のコンポーネントの豊富なラインナップ ② PLP基板搬送のコンポーネントをラインナップ ③ 多様なコンポーネントを組み合わせた「システム商品」のラインナップ ④ コンポーネントおよびシステム商品のカスタマイズ、最適化に必要な知見と技術	弱み Weaknesses ① 海外生産拠点強化(コスト競争力)や地産地消傾向への対応の遅れ ② 欧米市場における販売体制の強化 ③ 部品販売・アフターサービス事業の収益化 ④ 自社ブランドの「システム商品」のラインナップ強化
機会 Opportunities ① 半導体市場のさらなる成長 ② 半導体製造技術の革新 ③ 環境規制強化に伴う電動化の加速 ④ 地産地消 ⑤ エンドユーザによる、ファブの垂直立ち上げ・設備共通化の動き ⑥ SEMI規格の制定、改訂・追加	脅威 Threats ① 需要の拡大、紛争を起点とした資材の高騰および長納期化 ② 新興国企業および新興企業の台頭 ③ 半導体製造技術の革新 ④ 経済摩擦・制裁・紛争 ⑤ 法規制や経済政策による市場からの締め出し ⑥ SEMI規格の制定、改訂・追加

事業環境

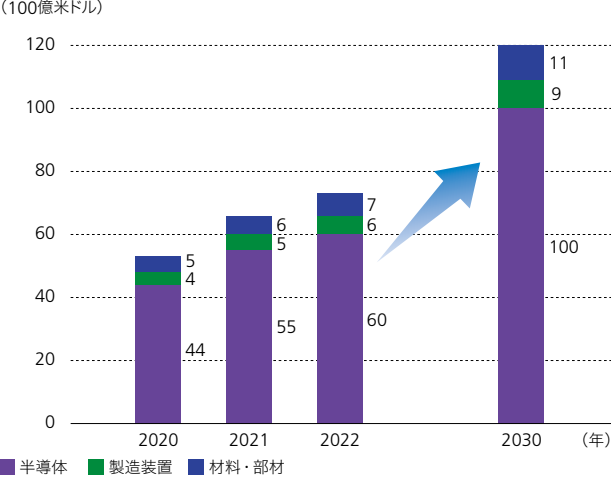
今後の業界見通し

デジタル化の基幹製品とも言える半導体は年々需要が拡大しています。また、2050年カーボンニュートラルを目指す社会においては、電動化が加速しており、自動車用途をはじめとした半導体の重要性が増しています。世界各国の政府が半導体産業への投資を積極的に支援する政策の導入や拡充を検討している中、各国の半導体メーカーも過去最高水準の設備投資を計画しています。2030年には、半導体市場は約100兆円に達する見通しであり、それに伴って半導体製造装置の分野も成長していく見通しです。

主要な取引先

主要な取引先としては東京エレクトロン株式会社、株式会社ディスコ、株式会社アドバンテスト、株式会社アルバック、株式会社荏原製作所などが挙げられます。

世界半導体関連市場規模の予測



出所：JEITA、経済産業省など各種データに基づく
(半導体、製造装置、材料部材の構成比は経済産業省「半導体戦略(概略)」2021年6月に基づき、2030年まで同じ比率で想定)

事業セグメント別戦略

2022年度の業績

半導体市場では減速傾向はあるものの、前年度からの受注残に加え、レガシー(旧来世代)半導体分野での設備投資需要を背景に、今年度も高い水準で受注・売上を確保しました。

	2022年度実績	2024年度目標
売上高(百万円)	28,954	40,000
営業利益(百万円)	3,445	6,000
営業利益率	11.9%	15%

事業戦略

半導体の微細化に対応した装置開発の活動を推進しています。納品までのリードタイム短縮についても課題と認識しており、サプライヤーさまによる協力やDX推進などによる生産能力の向上と部材の入手性向上に取り組めます。

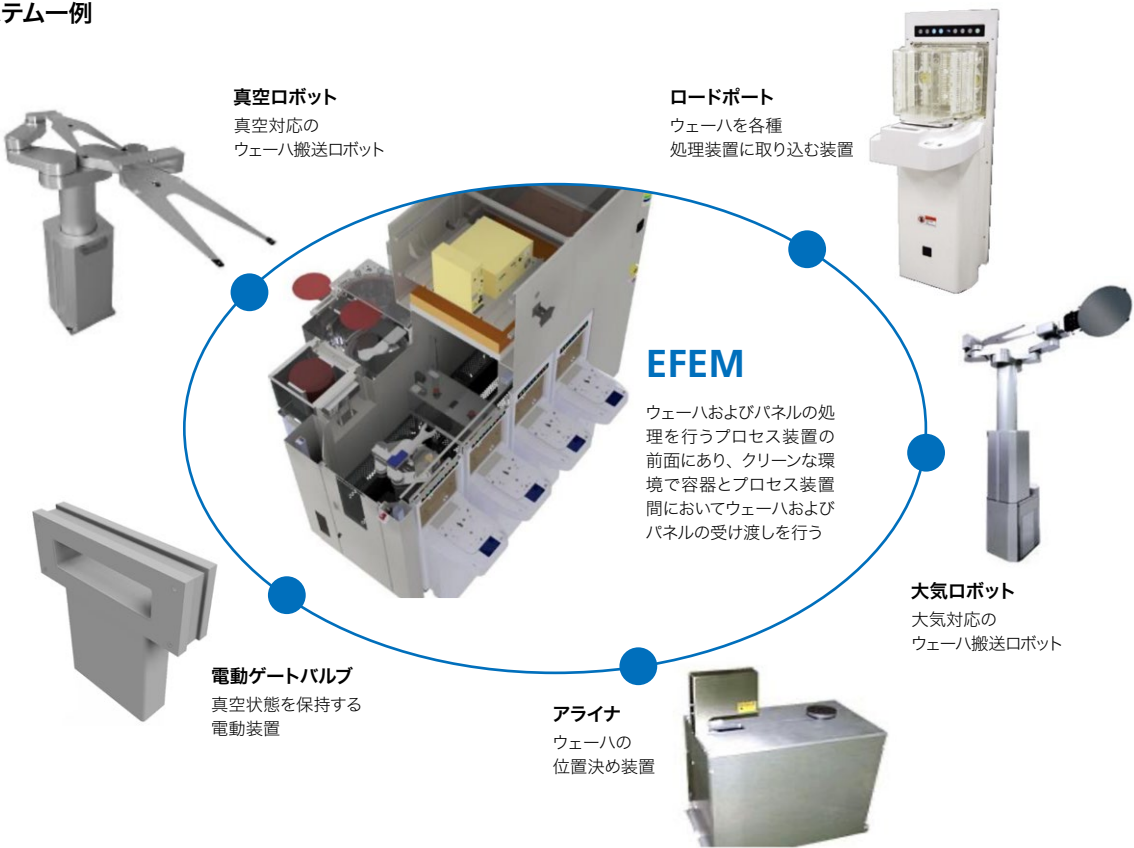
海外関係会社との協力体制構築にも注力しており、既存の中国・台湾エリアに加え、東南アジア、北米などほかのエリアにおいても連携を強化しています。

外部環境の変化に対応し、海外拠点における戦略と機能も再検討し、策定する予定としています。

中期経営計画
基本方針
1

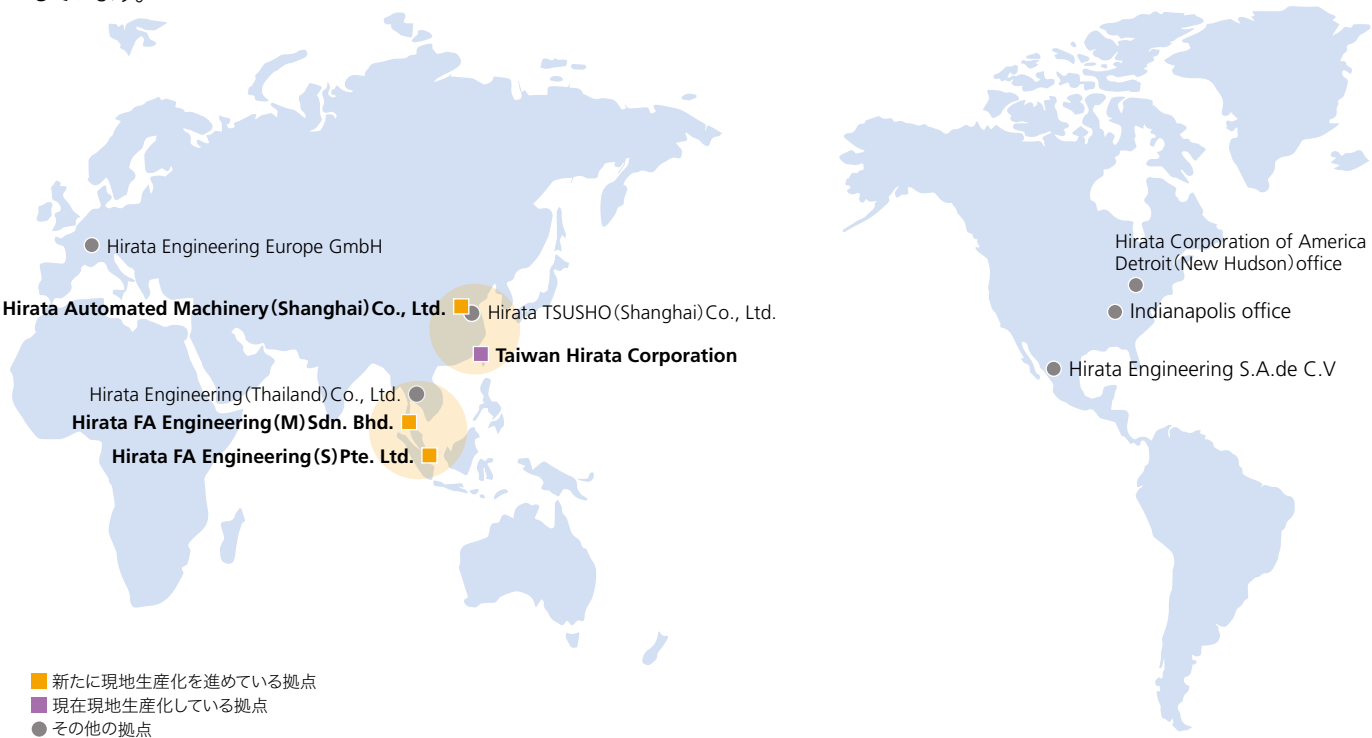
成長市場でのビジネス拡大
半導体関連事業における収益性強化の取り組み <EFEMの標準品採用へ向けた取り組みを強化>

システム一例



現地生産化の推進

台湾に加え、中国(上海)と東南アジア(マレーシア・シンガポール)でも生産・販売ができる体制を構築し、部材の現地調達も推進しています。



生産効率化	部材納入の遅延リスク低減および生産性向上のためにサプライヤーさまとの協力関係を強化
次世代装置開発	半導体の微細化に対応する半導体搬送装置の開発に着手済み

地域別事業戦略

北米

米国における特定の半導体メーカーと継続的な取引関係にあり、今後も日本の製造拠点と連携しながら、現地での営業・保守を実現できる体制を維持していきます。

中国

「中国製造2025」「製造強国2030」など中国国策により、半導体への投資環境は上向きとなっており、日本や台湾で先行しているウェーハ搬送装置の製造を中国でも展開できるよう社員への技術教育に注力していきます。

欧州

現地メーカーの半導体市場への投資拡大により、オープンなどの受注が堅調に推移しています。標準品に注力しながら、現地での営業・保守を実現できる体制構築を進めていきます。

東南アジア

シンガポール・マレーシアでは次々と半導体ファブへの投資が発表されており、今後の販売成長が見込まれる地域と認識し、ウェーハ搬送装置の営業を進めていきます。



その他自動省力機器事業

Other Automatic Labor-saving Equipment

1951年、リヤカーを提供する運搬機メーカーとしてスタートした当社は、設立後、現在の事業のきっかけとなるコンベヤの生産を開始し、さらにロボットや生産システムの事業へと変貌を遂げてきました。人だからこそできる創造的な仕事に人を専念させたいという想いで、技術革新を追求し、自動車関連、半導体関連に限らずさまざまな分野のお客さまへ、省力機器を提供しています。中期経営計画(2022-2024年度)の策定に当たり事業セグメントの見直しを実施し、「自動車関連」「半導体関連」「その他自動省力機器」という3つの事業に分類しました。「その他自動省力機器」については医療・理化学機器、家電やFPDなどの多様な分野の生産システムの製造・販売を行っています。

	2022年度実績	2024年度目標
売上高(百万円)	16,952	20,000
営業利益(百万円)	930	2,000
営業利益率	5.5%	10%

個別セグメント

▶ 医療・理化学機器

検体検査の自動化に貢献するロボットシステムや医療機器を開発・製造しています。

病理検査の全自動化を目標に商品開発を進めています。医療機器では治療用の装置開発に取り組み、がん治療装置については、薬事承認を得る目的で、法令および安全規格に適合した医療機器の開発をお客さまと共同で進めています。



細胞観察装置「ATS」



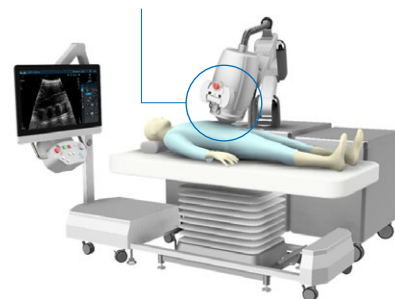
病理組織標本作製装置「EZ-PATH FLOAT」

Topics

集束超音波がん治療装置 ～超音波技術とロボット技術の融合～

当社は2021年1月ソニア・セラピューティクス株式会社(以下、ソニア社)と共同開発をスタートしました。ソニア社が開発した「気泡援用HIFU(強力集束超音波)治療」という新しい治療法を活かすため、医師の操作に正確に追従できる、安全な医療用ロボットを開発しました。

超音波トランスデューサ(発信機)を収納したヘッド



Voice

開発には抜け漏れのない仕様書や検証記録、設計書類などを滞らせない体制と仕組みづくりも重要でした。重量のあるヘッド部を患部へ移動させる必要があり、医療従事者の方が直接簡単に操作できる機能を工夫しました。より使いやすく、安全安心な機能の実現に尽力し、当社の技術を一人でも多くの方の治療に役立てたいと思います。



装置第一事業部
井上さん



ロボット事業部
清水さん

▶ 家電

当社が保有する搬送、ロボット、クリーン・精密組立などの技術を有効に組み合わせることで、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器、高品質ディスプレイ、高性能掃除機などの

進化を続ける家電製品の部品並びに最終組立までの設備に、グローバルに対応しています。

▶ 産業用ロボット

産業用ロボットは、当社のコアテクノロジーです。標準ロボットコントローラを保有しており、複数種類のロボットを同じ環境で操作可能です。また、ロボット言語を使用せずPLCやPCなどの上位装置からロボットを動作させることが可能で、システム設計者の負担の軽減と設備立ち上げ期間短縮を実現します。直交・水平・垂直多関節型ロボット複数種類を販売しており、幅広い生産システムの工程に合わせ、製品を提供しています。

機能安全を最優先に、産業用、医療用ロボットの開発・改善に取り組んでいます。

今後さらに成長が期待されている、EV(電気自動車)・半導体分野の生産システムをターゲットに、安全性・性能・機能・操作性を一層向上させて、普及の拡大と設備の性能向上に努めていきます。

▶ 物流(搬送システム)

さまざまな産業分野向けに、汎用性が高くカスタマイズされた自動倉庫や収納ラックレスのストッカーなどを、お客さまの

製品や工場環境に合わせて製造・販売しています。

▶ FPD

有機ELディスプレイは高画質、高速応答という特徴から、携帯電話だけではなく画面の大きな端末への需要も高まっています。生産性向上のため、基板サイズも現在主流のG6からG8への移行が求められ、設備開発が進んでいますが、設備の大

型化に伴い、多くの技術課題が発生しています。当社グループでは、これまでに培った大型FPD生産システムに対応する技術力と生産力で市場獲得に取り組んでいます。

Topics

「エコ電動シリーズ」～持続可能なものづくりへの貢献～

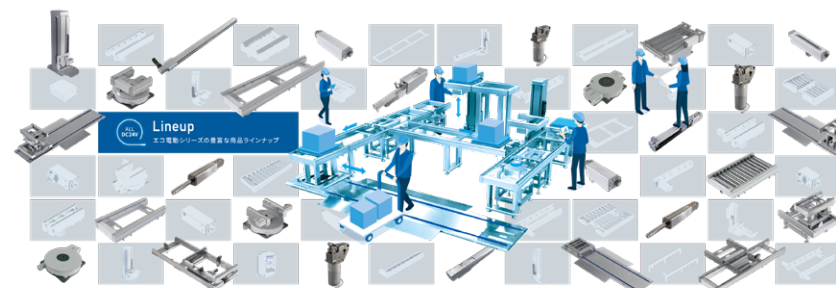
自社開発のブラシレスDCモータにより、搬送設備の省力化、コンパクト化を実現



持続可能なものづくりのため、Hirataが提案するエコな搬送システム

- 「エコ電動シリーズ」専用に自社開発した小型・高効率ブラシレスDCモータを内蔵
- DC24VのON/OFFのみで動作し、駆動盤やコントローラが不要

Hirata
BLUE MOTOR



▶ 「エコ電動シリーズ」について、詳細は特設サイトをご覧ください。
<https://hirata-ecoele.com/>